

研究者が手伝うという形ではなく、双方が対等な立場に立つ研究協力を目指すという本事業の目的は、相手国の監督省庁にもおおいに歓迎されている。まだまだ動きとしては小さいが、日本と相手国との文化交流に、重要な貢献をなしうるものと期待できる。

(文責：古市剛史)

VI. 広報活動

霊長類研究所では広報委員会が担当して、公開講座、研究所公開、オープンキャンパス（大学院ガイダンス）などを開催し、研究所の活動を所外の方々に紹介している。また、リーフレット、ホームページなどでも紹介・広報活動をおこなっている。

1. 公開講座

犬山公開講座「サルを知る」

2009年7月25日(土)～26日(日)、京都大学霊長類研究所にて開講した。参加者は57名。

<プログラム>

7月25日(土)

開会の挨拶：松沢哲郎

講義：マイク・ハフマン「サルの文化と学習について」

講義：田中洋之「分子マーカーとサルの遺伝管理」

実習：

社会生態：「サル観察実習」(辻大和、マイク・ハフマン)

形態学：「サルの骨格を観る」(江木直子)

遺伝学：「系統進化実習(霊長類の系統樹を作る)」(古賀章彦)

心理学「チンパンジーの行動実験」(友永雅己、林美里)

7月26日(土)

講義：脇田真清「ことばと音楽」

講義：高田昌彦「サルに学ぶ脳の正常と異常」

実習：前日と同じ

東京公開講座「サルからヒトを知る」

2009年9月19日(土)、日本科学未来館7階みらいCANホールにて実施した。参加者は156名。

<プログラム>

所長挨拶：松沢哲郎

講義：景山節「消化酵素の多様性と進化」

講義：濱田穰「ヒトの進化とエネルギー問題—脂肪と脳と家族」

講義：半谷吾郎「屋久島のニホンザルの人口変動と社会変動」

講義：松井智子「会話が心を育てる—ヒトのコミュニケーション力の発達」

質疑応答

2. 第19回市民公開日

2009年10月25日(日)13:00から15:30まで市民公開がおこなわれた。内容は、林美里による講演「チンパンジーの発達研究と日々の暮らし」と放飼場・展示室の見学だった。参加者は60名。

3. オープンキャンパス・大学院ガイダンス

大学の学部生をおもな対象とし、大学院ガイダンスを兼ねた2009年度のオープンキャンパスを、2010年2月22日、23日に開催した。各分科の教員による講義、所内見学、各分科教員との懇談会、さらに大学院生・研究員等も参加した懇親会がおこなわれた。参加者は33名だった。

<プログラム>

2月22日(月)

開会の挨拶：松沢哲郎

大学院入試に関するガイダンス：半谷吾郎

講義1「人間性って何だろう」正高信男

講義2「化石の研究からなにがわかるのか」高井正成

所内見学1

講義3「動く遺伝子」古賀章彦

講義4「霊長類ポストゲノムの展望と課題」今井啓雄

講義5「感染症の霊長類モデル研究」明里宏文

各分科の教員との懇談会1

懇親会(夕食を兼ねた立食形式の懇親会で、教員や大学院生とのコミュニケーションを図った)

2月23日(火)

講義6「ニホンザルの人口変動と社会変動」半谷吾郎

講義7「類人猿とヒトの社会構造の進化」古市剛史

講義8「チンパンジーのここを探る」友永雅己

所内見学2

講義9「形態の語るもの」濱田穰

講義10「ヒトの脳は特別か？」中村克樹

講義11「霊長類脳科学の新しい展開」高田昌彦

各分科の教員との懇談会2

(文責：林美里)

VII. 自己点検評価委員会報告

平成21年度も、自己点検の一環として年報の冊子体作成とホームページ掲載を行った。年報の作成作業に際し、年報に掲載しない学会活動や社会教育、広報活動、各種委員会での社会還元活動など、その他の「業績」も含めて業績等データを集積しデータ・ベース化している。また、本学の評価委員会でとりまとめている各種の調査書類の霊長類研究所分のとりまとめを行った。「国立大学法人の中期目標期間の教育研究評価」に関連して「学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート」、「国立大学法人の各年度終了時における附置研究所及び研究施設における「全国共同利用」の評価」に関わる資料としての「平成20年度研究活動等状況調査票」と「平成21年度研究活動等状況調査(抜粋)」、「H21年度中期計画進捗状況(11月回答分)」及び「特記事項(11月回答分)」、「第1期中期目標期間の教育研究の状況の評価における学部・研究科等の現況分析に係る資料の作成」に関わる「学部・研究科等の研究業績」の4つである。

自己点検評価委員会：渡邊邦夫(委員長)、古賀章彦、今井啓雄、友永雅己、松沢哲郎(所長)

(文責：渡邊邦夫)